

エピソード40

食物アレルギーのある子どもの
保護者から電話がありました。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験
があります。エデュサポネットのファ
シリテーターです。



小学校の3年生を担当していた時の
経験をお聞きします。

さくや君は食物アレルギーがあるお子さん
でした。学校では家庭から話を聞いて、
給食の食品に気をつけていました。

ある日さくや君は、給食で出たドーナツを
食べた後に、嘔吐してしまいました。





先生はどうしましたか。

僕は、ドーナツはアレルギー食品ではなかったし、他のおかずをたくさん食べていたので、食べ過ぎて嘔吐したのだろうと思い、保護者にも連絡しませんでした。

するとお母さんから「今も、気持ち悪いと言っている」と電話で連絡が来ました。





お母さんは他にも話をしましたか。
話を聞いて先生はどうしましたか

お母さんが給食センターに電話をすると、
アレルギーのあるエキスが、ドーナツに
少し入っていたことが分かったそうです。

見落としてしまったのはお母さんだったし、
アナフィラキシーも起こさなかったので、
僕は安心しましたが、嘔吐したことを
すぐに連絡するべきだったと謝りました。





お母さんの様子はどうでしたか。

お母さんはすごく不安になっていて、
僕と話しているうちに怒ってしまいました。

数日後、病院の検査の結果をもとに校内
支援委員会で対応を話し合い、その内容をお母さんに伝えると「そんなに細かくするのですか」とまた怒ってしまったのです。





お母さんは、他にも話をしていましたか。

さくや君が、検査の結果が悪かったことにショックを受け「もう家でも、一人の時は何も食べられない」と言っていること。

お母さんも、もし私が食材を間違えたらどうしよう。大変なことになると思っていることなどを話してくれました。





先生は、お母さんがどうして怒ってしまったと考えましたか。

僕は、お母さんの話を振り返りました。
そして、さくや君とお母さんが、
今とても不安なのだろうと気づきました。

でも、どんな声をかけたらいいか
わからなかったのです。





その後、どんなことがあったのか
教えてください。

次の日、お母さんから給食の担当者に
感謝の手紙が届いたのです。

手紙には「丁寧な対応をしていただき、
ありがとうございます。今後もよろしく
お願いします」と書いてありました。





先生は、お母さんの手紙から
どんなことを考えましたか。

僕は、お母さんの気持ちをもっと丁寧に
聞けばよかったのだと思い、これからは、
頻繁に連絡を取ろうと思いました。

その後お母さんは、不安なことも話して
くれるようになりました。怒ることもなく
なり、もちろんさくや君も元気です。





なみちゃんの一言

- 食物アレルギーの問題は、命にかかわる大きな問題です。学校でも慎重な対応が求められます。
- 家庭と学校、専門機関が連絡を密に取り合い、情報をきちんと共有することが大切です。
- でも一番大切なことは、保護者や子どもへの不安に寄り添うことなのかもしれません。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)